

焼津発！新生ごみ処理容器

(さば節製造工程で発生する菌を利用した生ごみ処理容器)

さば節製造過程で発生する菌を利用した生ごみ処理容器は、母材の中にいるバクテリアが元気よく働いて生ごみを分解してくれる生ごみ処理方法です。

ぜひ、バクテリアに餌をあげるつもりで、楽しみながら生ごみを処理してください。分解の過程を実感できます。

準備をしましょう

1. 置き場所

日当たりが良く、軒下など雨が当たらない場所が良いです。

- ・母材の温度が高くなるとバクテリアが活発に働きます
- ・夏に比べて、冬は分解が遅くなるので日の当たる場所の方が良いです
- ・雨の当たらない軒下等に置いてください

※上フタである程度の雨は防げますが、大雨警報が発令されるような時は雨の当たらない場所に移すなどしてください。

- ・風でフタが飛ばないようにしてください（フタに重しを置く）

2. スコップ

母材を掘ったり母材と生ごみを混ぜる時に使用します。母材と生ごみをよく混ぜるようにしてください。

3. フタ付き容器（用意すると便利です）

生ごみを毎日容器に入れるのではなく、別にフタ付き容器（ふた付きバケツ等）を用意して、2～3日貯めておき、1週間に2回生ごみを投入するようにした方が手間が少なくなります。

投入物について

バクテリアは基本的に人間が食べるものが好きです。

- ＜とても早いもの＞ 残飯類、肉・魚類、料理の残り物
- ＜早いもの＞ 野菜（大きいものは刻むと分解が早くなります）
- ＜遅いもの＞ 繊維質の多い野菜の皮
- ＜分解できないもの＞ 動物の骨、貝殻、玉ねぎの黄色い皮、梅干しなどの大きな種、食べものの以外のもの
- ＜分解が早くなるもの＞ 使用済天ぷら油やドレッシングの余りなどの廃油
※油を入れるとバクテリアの活動が活性化します。
(母材が油でグチャグチャにならないように注意)

＜問合せ先＞

焼津市役所 市民環境部 環境課

電話 054-626-1130 F A X 054-626-2183

生ごみ処理容器の使い方

1. ごみを2～3日分ためる

- 毎日、生ごみ処理容器に生ごみを投入することも出来ますが、別売りのフタ付きの容器（バケツなど）に溜める事をお勧めします。
- 調理で出る廃油も溜めてください。（油を入れると分解が早くなります）
- 小さく刻めば分解が早くなります。
- 出来るだけ水切りをして無駄な水分は取り除いてください。（完全に乾かす必要はありません）

2. 生ごみを深く埋めて母材をよく混ぜる

- 深さ15cmほどの穴を掘り、生ごみを入れます。
- 生ごみと母材をよく混ぜてください。
- 生ごみを深く埋めることで虫の発生を防ぎます。

3. 乾いた母材をかぶせる

- 最後に乾いた母材をかぶせてください。
※掘った時の母材は生ごみと混ぜず、最後にかぶせる為に避けておいてください。
- 表面の母材が乾いていることで、臭いを抑え、虫の発生を防ぎます。
- 生ごみが母材表面に出ていると虫や臭いの原因となるので注意してください。
※生ごみは出来るだけ深く埋めて、表面は乾いた母材で覆うように注意してください。

◎夏場は3日程度、冬場においては5日～1週間ほどで分解されます。

- ※初回の生ごみ投入時はバクテリアが休眠状態の為、分解が始まるまでに2日程度かかります。
- 生ごみが分解すると母材がダメになりやすいので、スコップで母材を突き刺して空気を入れるようにしてください。

4. アンケートの提出

- 2ヶ月間程度使用した感想を、容器引き渡しの時にお渡ししたアンケート用紙（A4用紙2枚両面印刷）に記入して、環境課まで提出をお願いします。

5. 使用方法動画

- 焼津市ホームページに使用方法の動画を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



困ったときのQ & A

上手につかうポイント！

1. 母材とよく混ぜる

生ごみに母材がまんべんなく付くように混ぜましょう。また、掘った穴が浅かったり、被せた母材が少ないと虫の発生の原因になってしまいますので、気を付けてください。また、生ごみは細かく刻んだ方が分解が早くなります。

2. 水切り

水分が多いと虫や臭いが発生して失敗の原因となります。

生ごみを完全に乾かす必要はありませんが、出来るだけ水気を切るようにしてください。

3. 空気

生ごみを投入して2日程度経ったらシャベルを突き刺すように、母材の中に空気を入れてください。容器の四角に湿った母材が溜まりやすいので分解が落ち着いたら良くかき混ぜてください。表面は乾いた土で常に覆われるように気を付けてください。

4. 雨水対策

容器には生ごみ分解で発生する水蒸気を逃すため上フタと中フタの間に隙間があります。ある程度の雨なら雨水は入りませんが大雨の場合は容器の中に雨水が入り、母材がグチャグチャになってしまう場合があります。出来るだけ軒下に置くようにしてください。

よくあるQ&A

Q1. 1日の処理能力は？

A1. 1日当たり約200グラムを目安としています。事前に職員がテストで使用していた時は、3日かけて500g程度溜めて、週2回の投入でもうまく処理できていました。毎日投入すると、母材を混ぜる回数が増え、生ごみが母材の表面に出てきやすくなってしまいますので、2日～3日に一度のペースで投入した方がうまく処理が出来ます。

Q2. 油を入れても構いませんか？

A2. 油はバクテリアが最も得意とするところです。使い終わった食用油、ドレッシング、ソース、カレーの残り、魚焼きロースターの汚い油等はヘラできれいに取って入れましょう。投入量は母材がグチャグチャにならない程度にしてください。母材表面が濡れていると虫や臭いの原因になります。

Q3. 生ごみが消えないのですが・・・

A3. 使い始めの頃は、バクテリアが活性化していないので時間がかかります。投入量を調整して様子を見てください。

分解を早めたい場合は、家庭から出る廃油を混ぜることで、分解が早くなります。

Q4. 母材がベタベタしたり、腐敗臭が出ていますが・・・

A4. 水分が多くなったり、生ごみを入れ過ぎたりして、母材がベタベタしていたり、腐敗臭が出るようでしたら、一度生ごみの投入をやめて母材を休めてください。生ごみの水切りを徹底し、最初は生ごみを大量に入れ過ぎず少しづつ様子を見ながら使用してください。

Q5. 母材がゴロゴロした塊が多くなった・・・

A5. 処理を進めていくと、母材がゴロゴロした塊になっていきます。塊だらけになってきたら、スコップで砕くようにしてください。

Q6. 母材の中にイモ虫のような虫がたくさんいたのですが・・・

A6. 生ごみが母材の表面に出ていたり、母材の表面が濡れていると水アブが防虫ネットに卵を産み付けて母材の中に水アブの幼虫が発生する事があります。

対処方法としては、夏場であればビニール袋にくるんで炎天下に放置することで、熱で虫を殺すことができます。また、油や米ぬかを入れてバクテリアの活動を活性化して母材の温度を上げる事で、熱で幼虫を退治することができます。また数が多い場合は、少量なら殺虫スプレーを使用しても母材のバクテリアに大きな影響はありません。また、市販のコンボパウダーを投入することで害虫の駆除をすることができます。

Q7. 母材の表面に白いカビが発生したのですが・・・

A7. 白いカビは発酵分解がうまく進んでいる証拠なので、そのまま放置するか、母材に混ぜても大丈夫です。

Q8. 寒くなって分解が進みません・・・

A8. 温度が下がるとバクテリアの働きは悪くなります。母材の中で野菜が新鮮なまま残るようになります。対処方法としては

- 細かく刻む ○茹でこぼしの熱湯などで生ごみをゆでる又はレンジでチンする
- 食用油を投入する ○生ごみを別容器で一時保管して少し発酵させる
- 分解の遅いものは燃やすごみとして出す ○春がくるまで投入量を減らす

Q9. 上フタと中フタの間に消臭剤や虫よけを置いてもいいですか・・・

A9. 大丈夫です。上フタと中フタの間で蚊取り線香を炊いていたら虫が発生しなかったという報告もあります。各自工夫したことをアンケートで報告してください。

ご自分にあったやり方を見つけて、アンケート提出後も生ごみ処理を続けてください。